

# 労働者のキャリアと能力ミスマッチとの関係

荒木祥太（経済産業研究所）\*

作成日：2026年4月27日

## 概要

本研究の目的は、OECD PIAAC データを用いて、読解力・数的思考力・IT を活用した問題解決能力に関する客観的スキル・ミスマッチ指標を構成し、労働市場経験年数および勤続年数と「能力過剰ミスマッチ」「能力過少ミスマッチ」の関係を日米比較により検討することである。現在の仕事について過少・過大資格感がないと自己申告する就業者を「スキル・マッチ」とみなし、その集団内で職種別にスキル分布の下位・上位パーセンタイルを推定し、同じ職種に属する全就業者のスコアと比較することで、能力過少・能力過剰ミスマッチを定義する。日本、韓国、および米国の就業者を対象に、これらの指標を被説明変数とし、労働市場経験年数と勤続年数を主要説明変数とするプロビットモデルを推定する。暫定的な結果によれば、少なくとも読解力・数的思考力に関する能力過剰ミスマッチについては、両国とも労働市場経験年数の増加とミスマッチ確率の低下との間に負の関連がみられる一方、勤続年数の独立した効果は本稿の推定では限定的である。能力過少ミスマッチとの関係はより脆弱であり、単純な「勤続・経験がミスマッチを一方的に解消する」という図式と必ずしも一致しないパターンも観察される。

**キーワード**— 能力過剰ミスマッチ・能力過少ミスマッチ、労働市場経験年数、勤続年数

**JEL classification:**— J21, J24

---

\* E-mail : araki-shota@rieti.go.jp